
2012年度第2回FD研修会について

今年度第2回目のFD研修会が12月19日に開催されました。

【講師】 沖 裕貴 氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)

【テーマ】 3つのポリシーに基づく内部質保証システムの構築

本学大学院の修了生でもいらっしゃる沖裕貴先生には、大学における「3つのポリシー」との関連で授業改善のあり方を考えることの意義をお話いただきました。

沖先生によれば、3つのポリシーとは、以下のことを指します。

- ① **ディプロマ・ポリシー (DP)** …卒業認定・学位授与に関する基本的な方針＝「学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質を記したもの」
- ② **カリキュラム・ポリシー (CA)** …教育の実施に関する基本的な方針＝「DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラム」
- ③ **アドミッション・ポリシー (AP)** …DPに沿った学生募集の方針と入学者選抜の方法



まず、ディプロマ・ポリシーは、学部・学科のめざす「人材養成像」を示すものであると沖先生は説明されました。具体的な例として、「違った価値観や伝統や制度をもった異文化に関して深い認識を持つことができる」(ハーバード大学)、「技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を説明でき、技術者が社会に対して負っている責任を感じる」(日本技術者教育認定基準 JABEE)などが挙げられました。

このディプロマ・ポリシーをもとに、各授業科目の目標も設定する必要性が指摘されました。沖先生によれば、各科目の目標設定にあたって、とくに次の2点が重要になります。

第一に、学生を主語にして、観察可能な行動として記述するという点です。「～のしくみを図解できる」「～の意味を表す作問ができる」などの記述の仕方が求められます。

第二に、観点別に表現するという点です。ここでいう「観点別」とは「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などを意味します。科目の目標は、半期15回の授業が終了した時点で「学生にできるようになってもらいたい行動や状態」をイメージして設定するとともに、期末試験の中身が想像できるようなものとなることが望まれると指摘されました。

次に、カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーをもとに、各授業科目の到達目標との対応を考えて設定されます。ディプロマ・ポリシー（人材養成像）を基盤として、そのうち当該科目が焦点をあてる領域（scope:カリキュラム・マップ）と、縦の配列・系統（sequence:カリキュラム・ツリー）の整理が必要になると指摘されました。他大学の具体的な事例も紹介されました。

なお、最近では、大学設置基準において、「学修の成果に係る評価及び卒業の認定」にあたって「学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする」ことが謳われているため、「ルーブリック」と呼ばれる指標を用いることの意義もお話いただきました。ルーブリックを学生に示すことで、授業への関与（参画）を促すことにもなると指摘されました。ルーブリックについては、Dannell, Stevens & Antonia (2004) *Introduction to Rubrics*が参考になるとのことです。

さらに、アドミッション・ポリシーについても、観点別教育目標で示すことが有効だと沖先生は指摘されました。推薦入試や一般入試などの入試形態ごとに、「学修に最低限必要とされる能力、資質、適性を、高等学校の学修の成果に基づいて観点別に記述する」とよいのではないかと提起されました。たとえば、「関心・意欲・態度」は推薦入試、「知識・理解」は一般入試、などの整理分類をするということです。

以上3つのポリシーの運用にあたっては、計画・実行・評価・改善のPDCAサイクルが求められると指摘されました。とりわけ、PDCAサイクルをシステムとして機能させることにより実践を徐々に改善していくことが内部質保証においては重要だとされました。

講演後の質疑応答では、①ルーブリックの設定と成績評定の点数との関連をどうするか、②3つのポリシーのPDCAサイクルを大学組織全体でどのように構築調整したらよいのか、などの意見が出されました。

研修会についての事後アンケートでは、「内容がとてもよく整理できた」という意見が多くありました。①ルーブリックについては、「その効果について非常に関心をもちました」、「BとAの境目をどうするか等、迷うことが多かったが、このような方法で明確にすることが可能であることがわかってよかった」という意見がありました。②組織としての取り組みについては、「シラバス作成などについて、システム化を図ることの大切さをあらためて認識した」、「チェックする仕組みがあることが重要だ。それらを組織間や学生たちも含めて共有することが大切であるということが印象に残りました」という声が寄せられました。また、「今日教えていただいた観点を取り入れながら、次年度のシラバス、成績評価を考えたいと思います」という意見もいただきました。

研修会の様子をビデオに記録しています。ご覧になりたい方は教務課までご連絡ください。FD委員会では、後期も授業アンケートの実施を予定しています。ご協力をお願いいたします。

問い合わせなどは、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、山口（副委員長）、村田、内田、樋口
事務担当：高松、相原、大谷